2026年11月24日
公益社団法人日本眼鏡技術者協会

眼鏡作製技能士　2026年度合格者分析

2026年度は、これまでと比べて女性合格者と2級合格者の増加が顕著だったといえます。

１．2026年度の合格者は1,042名

2026年度の合格者は、次のとおり。
1級：173名
2級：869名
合計：1,042名

等級別の割合は、
1級：16.6％
2級：83.4％
となっており、2026年度合格者の約5人に4人が2級です。
制度初期に比べ、2026年度は2級合格者の割合が高くなっており、今後は2級取得者が1級取得へ進む流れが期待されます。

2．累計登録者数は1万人を突破

2025年度までの累計9,606名に、2026年度の1,042名が加わり、累計は次のとおり。
1級：7,246名
2級：3,402名
合計：10,648名
2026年度は累計登録者数が1万人を超えた節目の年となりました。

3．女性合格者の割合が大幅に上昇

2026年度の男女別合格者数は、
男性：645名、61.9％
女性：397名、38.1％

一方、2025 年度までの累計では、
男性：7,829 名、81.5%
女性：1,777 名、18.5%
2026 年度の女性比率 38.1%は、2025 年度までの累計女性比率 18.5%を大きく上回っており、2026 年度の特徴の一つといえます。

特に 2 級では、
男性：528 名
女性：341 名
女性比率：39.2%

1 級でも女性は 56 名、女性比率 32.4%であり、女性の技能士資格取得が、2 級だけでなく 1 級にも広がっていることが分かります。

4. 年代別では 40 代が最多

2026 年度合格者の年代別構成は次のとおり。

年代	合格者数	構成比
20 代	233 名	22.4%
30 代	265 名	25.4%
40 代	321 名	30.8%
50 代	195 名	18.7%
60 代	27 名	2.6%
70 代	1 名	0.1%

最も多いのは 40 代の 321 名で、次いで 30 代 265 名、20 代 233 名です。20～40 代を合計すると 819 名で、全体の 78.6%を占めます。したがって、2026 年度は、若年層だけに偏っているのではなく、業務経験を積んだ 30～40 代が中心となっていますが、20 代の取得者も一定数を占めています。

5. 1 級は 40 代、2 級は 20～40 代に幅広く分布

1 級合格者 173 名の年代別内訳は、

20 代：30 名
30 代：35 名
40 代：58 名
50 代：37 名
60 代：13 名
となっており、40 代が最多です。
40 代以上が 108 名で、1 級合格者の 62.4%を占めています。

一方、2 級合格者 869 名では、
20 代：203 名
30 代：230 名
40 代：263 名
50 代：158 名
60 代：14 名
70 代：1 名
2 級は 20～40 代の各年代に広く分布しています。
このことから、2 級は比較的幅広い年代の入口資格として機能し、1 級は 40 代以上の合格者割合が高い傾向が見られます。

6. 20 代では女性が男性を上回る

年代別の男女構成を見ると、20 代は、
男性：91 名
女性：142 名
女性比率：60.9%
となっており、唯一、女性が男性を上回っています。

一方、年代が上がるにつれて女性比率は低下しています。
30 代：43.0%
40 代：29.0%
50 代：22.6%
60 代：14.8%
これは、若い世代ほど女性の割合が高い傾向が見られます。
今後、20 代女性が継続的に 1 級へ移行すれば、技能士全体の男女構成も徐々に変化していく可能性があります。

7. 都道府県別では東京都が最多

2026年度の合格者数上位は、次のとおり。
東京都：108名
神奈川県：103名
埼玉県：81名
福岡県：81名
愛知県：70名
大阪府：70名
千葉県：63名
北海道：51名
兵庫県：46名
新潟県：26名

首都圏の東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県を合計すると355名で、全国の34.1%に当たります。したがって、2026年度も大都市圏を中心とした合格者分布となっています。

一方で、福岡県が81名で全国3位タイとなっている点は特徴的です。ただし、福岡県は1級3名、2級78名であり、主として2級合格者の多さによるものです。

8. 愛知県は1級合格者が最多

1級合格者数の上位は、
愛知県：24名
神奈川県：21名
兵庫県：13名
東京都：11名
大阪府：10名

合格者総数では東京都が最多ですが、1級に限ると愛知県が最多となっています。愛知県は2025年度までの累計登録者数が全国最多であり、2026年度も1級合格者数が全国最多となっています。

9. 都道府県によって女性比率に大きな差

合格者 10 名以上の都道府県で女性比率を見ると、特に高いのは、
富山県：64.7%、11 名／17 名
熊本県：60.0%、15 名／25 名
群馬県：54.5%、12 名／22 名
東京都：50.0%、54 名／108 名
広島県：50.0%、5 名／10 名

特に東京都は、合格者数が全国最多でありながら男女が各 54 名で同数です。規模の小さい県では年度ごとの変動が大きいため注意が必要ですが、東京都については、合格者数の多さと男女の均衡を両立している点が特徴的。

2026 年度の特徴は、次のようにまとめられます。
① 年間 1,042 名が合格し、累計登録者数が 1 万人を突破した
② 合格者の 83.4%が 2 級であり、2 級を中心に制度が拡大している
③ 女性比率が 38.1%となり、従来の累計比率 18.5%から大きく上昇した
④ 20 代では女性が 60.9%を占め、男女構成の変化が特に明確である
⑤ 合格者の中心は 30〜40 代だが、2 級は 20 代にも広く浸透している
⑥ 1 級は 40 代以上が中心で、経験を重ねて上位資格を取得する構造が見られる
⑦ 首都圏の集中は続いているが、福岡県など地方中核県でも 2 級合格者が多い
⑧ 愛知県は、引き続き 1 級技能士の輩出が目立つ

特に重要なのは、単に登録者数が増えただけではなく、「2 級中心」「女性の増加」「若い女性の参入」という質的な変化が見られることです。今後は、今回増加した 2 級技能士、とりわけ 20〜30 代の合格者が、その後 1 級取得へどの程度移行していくかが、制度定着状況を測る一つの指標になると考えられます。

以上